

# ミヤギノ新体制

会長 堀 清志



お初にお目にかかります、  
と言った方がいいのでしょうか。今年度から新しい会長に就任した六回生の堀という者です。実は、第三回の総会・懇親会の際既に会長として（総会では承認前ですが）出席していますし、同窓会名簿で巻頭言も書いていますし、もしかしたら十周年の祝賀会で見かけた方もいらっしゃるかもしれませんので、冒頭のよ

うな挨拶になつてしまいました。僕の会長挨拶はすこぶる機能的な（つまらない）ものだと思います。というのも、同窓会の役員が実際のところ何をやっているのか、皆さんに十分に伝わっていないことが問題になってい

上、今後の同窓会組織の活動形態を考えたも、会長としてアカウンタピリティを疎かにはできない状況になつてい

る。既に述べた同窓会の公式Webサイトや、会則変更の検討、新体制に合わせた制度作り等の活動を進めています。特に会則については常に状況に合わせた変更の可能性がりますので、ご注意ください。現在の最新のものには既にお配りされています。変更の際には本誌の会長挨拶やWebサイトで報告したいと考えています。



編集・発行  
宮城県宮城野高等学校  
同窓会事務局  
〒983-0021  
仙台市宮城野区田子2-36-1  
ホームページ  
<http://miyagino-highschool.com/entrance.html>  
E-mail  
[info@miyaginohighschool.com](mailto:info@miyaginohighschool.com)  
第9号  
2006年3月1日発行  
題字：田代ひとみ先生

## 創立十周年諸行事を終えて

校長 荒 伸二

今年度創立十周年式典を仙台サンプラザホールで盛会のうちに終えることができました。式典の司会をはじめ、記念事業として同窓会名簿の発行や仙台国際ホテルでの同窓生による作品展、ジャズ演奏、在校生との交流イベント「ミヤギノラウンジ」の開催など堀清志会長を始めとする関係諸先輩に多大なお力添えを頂きました。改めて感謝申し上げます。

最近二トと呼ばれる定職を持たない若者が六十万人もおり、その中に大学卒の人も少なくないと聞いています。このことは確かに雇用の社会構造的な問題でもありますが、本来学ぶべき時期に周囲から適切な助言がなされたかどうか大きく影響します。

さて、新設高校も十年を過ぎればその結果について成否が求められます。結果とは大に何人合格したというものではなく、宮城野高校の自由な校風の中で育まれた皆さんが社会に出てどのように活躍され、言わば社会に貢献できる市民になったかどうかを自ら検証しなければならぬ時期にきているのではないかと思います。

先輩の皆さんはF・TやP・Sでその一端を学んでおり、高校を終えるまでにきちんとした勤労観や職業観が身に付いていると思いますが、多分自分が描いた理想の仕事に就くのは大変なことで実感していることでしょう。むしろ世に出てから教養や知識と技能の深化を図り、それをねばり強く追い求め続ける先輩であつてほしいと思つております。

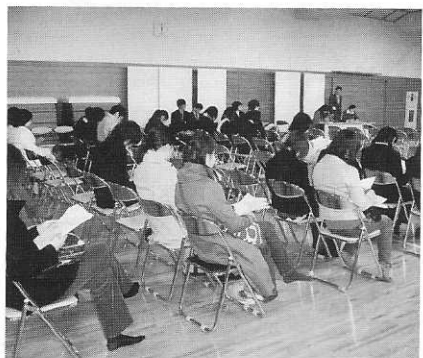


一般的に高校卒業時点では社会的使命の自覚（精神的な自立）が求められ、大学を終えた人間は社会に貢献しなければならぬとされています。



案件報告の様子です。

平成十七年三月十九日、宮城野高等学校の武道場において同窓会総会が開催されました。平成十四年の開催に続き、今回です。同窓会は三回目を迎えます。様々な年代の卒業生たちの協力により成立した本会は、同窓会設立当初の理念が脈々と受け継がれていることをしっかりと示しているものでした。実行委員長として、右も左も分らないまま迎えた同窓会。生徒総会がなかった宮城野においては、様々な学年の人達と協力して学校全体のことを考える、ということがとても新鮮に感じました。



総会ってこんな感じ。

のか。同窓生として経験の浅い僕は戸惑ってばかりでした。そんな中、皆で話し合いを開始したのは、総会当日から遡って実に一年も前のことでした。在仙の先輩方を中心に議題や役員の動き、役割分担等を繰り返し話し合ったことを覚えていきます。

そうした末に迎えた当日、寒空の下、会場には朝早くから同窓生の姿が見られ、皆それぞれの再会を喜んでいるようでした。

会の内容に関しては、主に同窓生による事業や決算、予算案の報告、また今後の同窓会についての新役員案等の報告がなされました。運営は以前に総会を経験している先輩方を中心に、各回生から幅広い参加を頂き、司会役、発表者、受付係等相互の協力の下で進行していきましました。大き

第3回

# 同窓会総会 懇親会



シルエットクイズ!! 誰でしょう?

な混乱や手違いもなく会を終えることができたのは、単純に今まで回数を重ねたからというところもあるでしょうが、何よりも皆の協力の部分が大きかったことは疑いないものでしょう。

若い世代からの新事業の提案があったり、総会後には役員の間で反省点や課題も多く寄せられたりなど、今後につながる充実した総会となったのではないのでしょうか。

また、同日には宮城野高校体育館において懇親会も開かれました。集まった同窓生たちにより食事会・スライドショーなどによる交流が行われ、皆当時の雰囲気を感じながら懐かしんでいたようです。会には校長先生を始め、宮城野高校の現職の先生方、またすでに宮城野高校を後にされた先生方等もお見えになっていました。



懇親会の様子です。

皆それぞれの進路や近況について話が弾んでいたようで、高校時代を振り返ることで、現在の自分の位置を確認する一つのきっかけになったように思います。

新設校として名高かった宮城野高校でも早十年もの月日が流れました。今年は第二代会長への引継ぎも行われ、一つの節目としての同窓会総会となったのではないのでしょうか。宮城野高校において、歴史や伝統という言葉に口にするのもなんとなくためらわれる感じがしますが、そうした流れを感じざるを得ないものがあつたように思います。この同窓会総会を足がかりとして、今後も同窓会がさらに発展していくことを切に願います。

(文責：片平)

宮城野高校の創立十周年記念式典は平成十七年十月二十八日、仙台サンプラザで挙行されました。本誌編集委員は残念ながらかけつけることができませんでしたが、有名な作家である大江健三郎氏を迎え、更に在校生によるアトラクションも行われた盛大な式典だったと聞いています。



記念式典が開かれたホールには人がびっしり。

同日の祝賀会は場所を仙台国際ホテルに移し、夕方から楽しい懇談が始まりました。この会には僕(本誌編集委員)も間に合い、多くの赤ら顔(?)の先生方と話す機会を得ることができました。もはや同窓生にとっては馴染みとなつている、安達理慧さん(四回生)を中心とするユニットのジャズ演奏を聴きながら、豪華な食事に舌鼓を打つ。本間利裕先生の熱い声を聞く。先生方の気合の入った出し物に爆笑する(失礼)。



同窓会の石田直子さん(一回生)が司会を務めました。

## 宮城野高等学校 創立10周年 記念式典&祝賀会

見ると、家族ぐるみでのミヤギノの絆というものがあるのではないかと感じてしまいました。ただ、そうは言っても宮城野高校への帰属意識が最も高いのは同窓生だ、と信じてる人は多いはず。今はまだ社会に出て(出ようとして)はばたく準備をしているミヤギノの同窓生ですが、いずれ立派な社会人になったとき、我々自身が宮城野高校の二十五年や五十周年を祝うことができたなら、これほどミヤギノ冥利に尽きることはないのではないかと思います。今回は先輩社会人に甘えた格好にはなつてしまいました。



先生方のすずめ踊り。会場を大いに沸かせました。

また、十周年記念事業では去年七月の宮城野高校の文化祭に合わせて太陽光発電(ソーラー)システムの除幕式を行いました。これは、高校に設置したソーラーパネルから得た電力を大講義室の冷暖房に役立てようという意図のもので。こうしたモノとして残るプレゼントを高校に残すことで、「あ、これって先輩の人たちが作ったものなんだ」などと在校生に言われれば、更にミヤギノ冥利に尽きるというものです。同窓生の皆さんも小さな仲間内でそんなことを空想しつつ、アイディアを温めておくのも一興ではないでしょうか。



会場の前では同窓生の作品が多数展示されました。

(文責:堀)



# miyagino high school 10th anniversary

# 「ミヤギノ」十周年

宮城野プロジェクトチームが遂に高校に殴りこんできました！

去る平成十七年十一月十二日、土ゼミを終えてほっとしたばかりの在校生その他多くの人々を襲った「デーブ・インパクト」は、そんなものだったに違いない…と思ったら、在校生は卒業した同窓生の活動なんぞ知らなかったのです。

しかし、我々卒業生にとつては宮城野プロジェクトチームはもはや伝説（なのか？）。直接イベントに乗り込んだ方は勿論、律儀に本誌を読んでくださった方々ならその活動の一端を知っているはずですが御存知ない方は、去年送られてきたはずの「同窓会名簿」にある本誌六号を見られたし。ともかく、この組織のメンバーの皆さんは「ミヤギノかく



ここはなんと食堂。床もカラフルに仕上がっています。

あるべし」というステレオタイプに正に合致する、すごすぎる人たちなのです！当日参加できず、直接お会いすることができなかったのは誠に残念でならない！（またかい）

さて、その十一月に高校の食堂（一）で行われた「ミヤギノラウンジ」なる企画の内容はというと、在校生や卒業生、更には先生方や保護者の方々をも募つてのスケールの大きい「おしゃべり」。しかも、その手のプロである企画代表の國府田典明さん（三回生）を中心として創り出されたカフェという空間での贅沢なものです。

無料でいただけるスイーツ、コーヒー、ティースービスはいずれも極上のクオリティで、思わずこぼれる笑みはそれだけで「おしゃべり」へ導きます。「Focus Talk」では「ケー



コーヒー片手に音楽を楽しめるとはミヤギノらしい。

タイ」や「美しい」をテーマにしておしゃべりを展開。その他にも、種々のパフォーマンスが会場内を活気付けました。靴デザイナー・クリエーターの佐藤真貴子さん（二回生）による靴の製作実演、サックスプレーヤーの安達理慧さん（四回生）によるサックスパフォーマンス、山本一輝さん（七回生）による似顔絵書き…。

こうしたシチュエーションが、在校生や卒業生といったミヤギノに関わる人たちの忌憚無き交流を生み出したのは疑いありません。ある人は自らの進路を思い、ある人は自分の知らない世界に刺激を受けたことでしょう。

結局、参加人数は総計で二百五十人近くになったとのこと。恐るべし、「ミヤギノラウンジ」！そして恐るべし、ミヤギノのバイタリティ溢れる人たち！  
(文責…堀)



美しく仕上がるスイーツたち。おいしそうです。

## 企画受付のお知らせ

同窓会では、上記「ミヤギノラウンジ」のような同窓生による企画の受付を行う体制を整える方針です。詳細についてはまだ話し合いの段階ですが、以下に挙げる大まかな規定を押さえた上での申込み能かと思われまます。

- ・同窓生、あるいは高校に資する内容であること
  - ・役員会に提出する段階で予算書を作成すること
  - ・役員会に提出する段階で実行メンバーを確保すること
  - ・後者の二つは相談する段階では必要ありません。当方と相談の上、実現の目途が立ちましたら準備していただければと思います。
- 皆さんの振るつての参加をお待ちしています。

連絡先：「宮城野高校同窓会ホームページ」メールアドレス  
<info@miyaginohighschool.com>

## 國府田 典明(こうだ のりあき)

宮城野高校3回生。  
東京造形大学デザイン学科メディア造形専攻卒業。

東京造形大学卒業研究・制作展において「音の空間性」という作品で2003 ZOKEI賞を受賞。2004年、同作品で東京都写真美術館「インフォメーションアートの想像力展」出展。2005年の国際デザインコンペティションDesign21では展示会場のサウンドを担当する等、多くの展示に参加。

2001年からカフェプロジェクト「m-cafe」に参加、運営に関わる。

現在、CG製作、ビデオ編集等の仕事をフリーランスで行いつつ、m-cafeスタッフ、またDJとして活動。

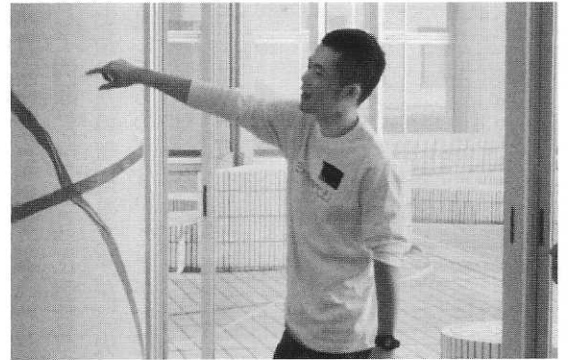
今後、気象予報会社のインターネット放送の番組制作に携わる予定。

音による空間の創造性や、cafeという形のパフォーマンス性等がテーマ。

<<http://www.codacoda.com/>>

# Interview!

## コーダさんに 聞きました。



・コーダさんが現在の仕事を選んだ理由、あるいはきっかけを教えてくださいませんか？

個人的な活動として、カフェプロジェクト「m-cafe」や「DJ」をしておりますが、世間的には「フリーター」です。

「DJ」は宮城野の頃から興味をもっていたことで、音楽で「空気感」を作っていく事に面白みを感じています。

m-cafeには、「DJ」の興味の延長で、クラブという所以外でも「DJ」は活きるのではないかと考えて、参加しています。

就職しなかった理由は、学生の頃に就職活動することに実感がわかなかったことや、m-cafeや「DJ」という事がやりたい事として存在し、それらを発展させていくことができないか、探りたいと思っていたからです。

というのが、最近までの状況で、実は現在のアルバイト先(気象予報会社)に、近日中に就職する事になりました。

仕事の内容はインターネット放送の天気予報の番組制作です。

制作のアルバイトだったのですが、自分の活動ややりたいことを、ちびちびアピールしていくうちに、社長と仲良くなり、正式に雇ってもらうことになりました。

番組の編集は「DJ」に通じるものがありますし、番組の企画にも関わられるので、自分のメッセージを込められる可能性があり、それらを世の中に発信していけることは、とても魅力的な事だと思っています。m-cafeやDJも可能な限り、続けていくつもりです。

※ m-cafeとは場所を持たないカフェというプロジェクトで、毎度、場所やシチュエーションが変わります。このプロジェクトは飲食そのものを追求するのではなく「飲食を通じた人のつながり」に興味をもって活動しています。<<http://www.m-cafe.org/>>

・宮城野高校でのどんな経験が今の自分に役立っていると思いますか？

「進路を自分で組み立てる」どのような生活をしていくのか」という事が今の自分を作っている原点であると思います。

進路に限らず、高校生活が「自由」であったことは、自分に対する問題意識をもつことにつながりました。

自分はどうしていききたいのか考え、そして、どのようにしていけばいいのか。今でも、これの繰り返しです。

大学、社会人と進んでいきますが、その都度、自分はどうしたいのか確認して、どうしていけば、自分が成長していけるのか、考えます。

これはとても重要なことで、自分のことを考えていると、次第に社会、政治、教育のことも考えるようになります。

自分はどうのような社会で生きていきたいのか。この気持ち「生きていく事」につながっていくのではないのでしょうか？

このことを実践できていることは、とても誇りに思っています。

・宮城野高校を卒業して社会人を目指している、あるいはなっている同窓生の方にメッセージをお願いします。

宮城野時代に語り合ったことが、やっと実践できる段階に来ているのではないかと思います。

もちろん、目標が変わったり、事情が変わったりすることもあるでしょう。

それらも含めて、これからも語り合っていけたらいいと思います。

「語り合うこと」は重要なことだと思っています。

## 宮城野高校の思い出



宮城県第二女子高等学校  
館 節子 先生

十年間お世話になった宮城野高校を転勤して、早いものでもうすぐ一年になります。

宮城野高校では、朝から晩までずっと数学を勉強して、自分にとっても本当に良い勉強になりましたが、個性豊かな生徒たちと勉強しながら語りあったり、笑いあったりした毎日が私にとっては大切な日々であったと思っています。

ホームルーム活動で有志キャンプを行ったり(担任の私はテントの張り方も知らなかった)さつまいもを植えたり(雨が降らなかった)ので夏休みに川の水をまぎに通った)、クラスで映画を見に行ったり(途中中道に迷ったりいろいろあった)、茶道サークルの生徒は瞬く間に点前を覚えてしまう優秀さだった。どれもとても懐かしい。

放課後でしたが、中学生に校舎を案内したことがありません。美術棟・体育館・コンピュータ室・選択教室と案内し、いろ

いなな場所ので授業では見たことのない生き生きとした表情の生徒たちに大勢会いました。部活動がなくても、主体的に動いている・輝いている宮城野生が私の一番大好きな宮城野生のイメージです。

今、私は朝数をやっています。そのかわり、部活の担当になったのをきつかけに、その時間に弓をひいています。的になどまったくあたらはず、手は豆だらけ、建物の屋根を越えたりして問題になったり、正直言うところ泣きたい気持ちですが、「失敗してもめげない」ことが大切だといつも教えているので、もう少し頑張るつもりです。

最後になりましたが、十回生の皆さんへ、「卒業するまで、私は十回生のことが気になっている」と思います。どうか、自分を信じて最後まであきらめず、ベストを尽くしてください。力が発揮できることを心から祈っています。」

## 先生方のページ

～創立当初からミヤギノを支えたおふたり～



MTB in 宮城野高校

宮城県宮城野高等学校

磯部 欣一 先生

宮城野高校には、「チーム理体屋(リタイヤ)」というMTB(マウンテンバイク)のチームがある。宮城野高校教員のチームで、現在の会員数は十二名(転勤なさった先生も含む)である。同窓生の皆さんに、宮城野高校でのMTBの歴史を紹介しよう。

平成十年から十三年は言わば黎明期であった。私が宮城野高校に赴任した平成十年に、理科のI継先生といっしょに宮城蔵王えぼしスキー場にMTBダウンヒルをやりに行ったのが最初である。その後、二人で「チーム物地(ぶつち)」というチーム名で泉ヶ岳での三時間エンデュロ(耐久レース)に出場した。

さらに、体育科のD寺先生も入り、「チーム理体屋」というチーム名ができた。A.L.TのDス先生といっしょに「チームRoundhead」を名乗ったり、美術科のS本先生・H男先生も入会し、「チーム美理体屋(ヒリタイヤ)」を名乗ったりもした。

が、「チーム理体屋」の名前は、そのユークで親しみやすい音もあってか、他チームの人たちにも徐々に浸透していったのである。

平成十四年から十七年は発展期と言える。この間に入会したのは、数学のS助先生・T哉先生・S倉先生、理科のM雄先生、体育のY朗

先生・T代先生・E岳先生、家庭科のK田先生、A.L.TのWデイ先生たちである。毎年五〜七回、レースに出場した。レースに出場しても、優勝をねらうわけではない。みんなと山や林などの自然の中で一日走り回ることが楽しいのだ。でも、入賞経験だつて数回ある。「チーム理体屋」として特別賞をもらったこともある。

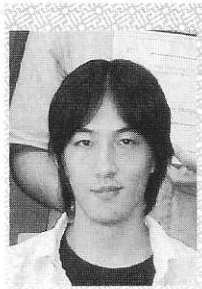
昨年の十月にはI継先生・英語のE知先生・理科のS誠先生といっしょに鳥海山麓MTBサイクリンググループに出場し、オリンピック代表選手の竹谷賢二氏といっしょに走った(写真参照)。

MTBの耐久レース出場を中心に活動してきた「チーム理体屋」ではあるが、「自転車でおさんぽ」や懇親会などのソフトな活動も行ってきた。今後、宮城野高校での新たなMTBの歴史を作っていくために、同窓生の参加も歓迎する。



2005/10/09 PM05:05  
第4回鳥海山麓  
MTBサイクリング完走記念  
(左から、磯部、I継先生、E知先生、  
竹谷選手、S誠先生)

# 土曜ゼミと私



二回生 今野 大悟

私は現在大学にて数学の研究を行なっています。よく研究している内容について問われることも多いのですが、不意に問われるとどのように答えたら良いものか少々困ることもありま

す。しかし、私の行なっている研究のおおまかな紹介が実は私が高校生である時に土曜ゼミにて行われたことがあったのです。土曜ゼミでは通常の授業では行うことの難しい内容、例えばジャズの演奏会、授業では話すことの出来ない高度な内容はまた手話講座などが開かれたりしてしま

さて、私が高校生の時に土曜ゼミで話された数学の話というのは、長い間にわたり数学界の難問として有名だったフェルマーの最終定理についての紹介でした。フェルマーの最終定理とは「 $n$ が3以上の自然数の時、 $X$ の $n$ 乗と $Y$ の $n$ 乗の和は $Z$ の $n$ 乗に等しい。」との条件を満たす自然数 $X$ 、 $Y$ 、 $Z$ は存在しない。」という内容です。ここで $n$ が2の場合は「三平方の定理」を表す式であり、その様な数は無数に存在します。今から遡ること凡そ370年ほど前、フェルマーが本の余白に「証明をみつけたがそれを記す

にはこの余白は狭すぎる」と記しているものの、証明が残されていなかったために後世になって多くの数学者が証明を試みてきましたが、ことごとく失敗してきたのです。しかし私が中学生であったころ、アンドリュー・ワイルズによってついに証明が与えられたのでした。今では証明されてから10年以上が経ちましたが、私が高校生の頃は証明されてから間もない頃でした。土曜ゼミではその証明の基礎と歴史的な部分に焦点を当ててその紹介を話されたのです。

当時の自分にはあまりに高度な内容で理解するのが難しいものでありました。実際この内容を私が本格的に勉強して理解していくのは大学四年生になった後であり、中には大学院に進んでからすこしずつ理解できてきたものも少なくないのです。しかしながら、この講義によって決めたわけではないのですが、結果として現在私が行っている研究はこの時話された内容に関連するものとなったことも少なからず土曜ゼミから影響を受けたからなのではないかと思えます。数学の奥の深さを感じて大きな刺激となったことは確かかなようです。

# 卒業生のページ

## ～宮城野ジェネレーションギャップ～

# 近況雑談



八回生 鎌田 舞

宮城野を卒業してからもうすぐ一年。

高校時代を、恋だのおしゃれだの、青春特有の甘酸っぱい経験が殆どないままに終えてしまった私は、相も変わらずしょっぱめの日常を送っています。変わった事といえば、前髪を切りすぎた事くらいです。発育不良のしめじのようなヘアースタイル。…流行るわけが無い。

寒い日が続いています。が、皆様如何お過ごしでしょうか？東北生まれの東北育ちで東北に骨を埋める予定にもかかわらず、寒さに弱い私は、昨年の聖夜、細菌に腹を攻撃され、回復したかと思いきや、凍結した路面の所為で転倒。通勤途中の会社員に鼻で笑われました。また、寒さのあまりに肋間神経痛（たとえ）を発症。脇腹の何とも言えない痛みを堪えつつ、レポート用紙にとらめついています。自業自得です。

寒いのは嫌いです。雪は嫌いではないという矛盾を抱えています。その為でしょうか。昨年の大晦日、自宅の郵便うけの上に、雪と水だけで犬を作ってみるといふ暴挙にで

ました。案外上手く出来たので、写真をとって数人に送りつけていました。が、案の定、翌日には融けて、完成当時は中型犬だったのが、小型犬に。新年のめでたい日の光が憎たらしかったのを憶えています。

…改めて振り返ってみると、何とも言えない日々を過ごしている…と言うより、この歳になって一体何をしているのだろうか自分。今年成人する予定なのですが、なにやら不安です。先日、眼鏡を頭にのせたまま「眼鏡エエエエエ」と、探しまわっていました。典型的「漫画のような」話ですが、事実です。よくやってみようのです。即ち、脳が老化している疑い有り。物忘れが激しい&人の顔が憶えられないという学生にとって致命的な爆弾を抱えています。

そんな私でも、まあまあ楽しい日々を過ごしています。が、寒い寒ささえなければもう少し楽しく生きていける気がする…が、暖かくなると杉花粉の攻撃が。暑くなると飛行吸血虫が。

…結局、どの季節もそれなりに過ごしていくらしいです…。

# 同窓会公式Webサイト 開設のお知らせ

お待たせしました。遂に同窓会のWebサイトが復活です！

以前からWebサイトについては言及がありましたが、同窓会Web担当の井上さん（七回生）を中心に昨年十月十日より無事立ち上げることができました。これからの同窓会の主力メディアとして活躍することが期待されます。

内容としては、まず一般の同窓生の方への各種のお知らせが挙げられます。これを閲覧することで、総会等のイベントを事前にチェックすることが可能です。

また、同窓会の業務内容を報告するページでは、総会を経ずして常に動向をチェックできる体制を整えたいと思っています。高校で開かれる幹事会や常任幹事会の日程も見れるので、「ちよつと手伝ってやるか！」という方、あるいは「見学してみようかな」という方も気軽に参加ください。

役員向けには、より円滑に活動するための資料庫を用意

することが予定されています。紙資料を電子情報化し、共有財産として使用していきたいと思えます。

それと合わせて、会報を電子情報化してWebに公開し、紙媒体でかかる費用を削減しようという案も検討中です。企画支援のページは、企画支援の枠組みが会議で決定され次第、本格的に始動することになっていきます。

勿論、同窓生とのコミュニケーションの場としての掲示板(BBS)も用意されています。まだまだ未決定事項や実現していない項目ばかりですが、Webサイトを生かすも殺すも皆さん次第。多くのご訪問をお待ちしています！



<http://miyagi-no-highschool.com/entrance.html>

## 平成 16 年 度宮城県宮城野高等学校 同窓会決算書

(単位：円)

収 支 対 照	収 入 額	支 出 額	残 額	摘 要
	10,934,837	990,241	9,944,596	

### 収入内訳

項 目	予 算 額	決 算 額	増 減	摘 要
会 費	1,512,000	1,404,000	-108,000	@1,800*780
入 会 金	276,000	259,000	-17,000	@1,000*259
繰 越 金	9,203,597	9,203,597	0	
雑 収 入	8,403	68,240	59,837	卒業生返金残金・預金利子
合 計	11,000,000	10,934,837	-65,163	

### 支出内訳

項 目	予 算 額	決 算 額	増 減	摘 要
1 総 務 費	570,000	150,132	-419,868	
(1) 会 議 費	30,000	0	-30,000	
(2) 旅 費	100,000	63,500	-36,500	編集委員旅費
(3) 需 要 費	350,000	37,337	-312,663	封筒印刷他
(4) 通 信 費	30,000	49,295	19,295	連絡用切手・はがき
(5) 慶 弔 費	50,000	0	-50,000	
(6) 雑 費	10,000	0	-10,000	
2 事 業 費	10,310,000	840,109	-9,469,891	
(1) 総 会 費	0	150,000	150,000	
(2) 会 報 発 行 費	550,000	355,830	-194,170	会報印刷・送付用切手
(3) 名 簿 編 集 費	100,000	5,400	-94,600	
(4) 支 部 助 成 費	0	0	0	
(5) 卒 業 式 補 助 費	300,000	228,144	-71,856	卒業証書ホルダー
(6) Webサイト費	360,000	100,735	-259,265	Webサイト立ち上げ代
(7) 積 立 費	9,000,000	0	-9,000,000	
3 予 備 費	120,000	0	-120,000	
合 計	11,000,000	990,241	-10,009,759	

## お知らせ

「宮城県宮城野高等学校同窓会会則（以下、会則）」は同窓会を規定する重要な文書です。現在の最新のものは皆さんに既に配付している「同窓会名簿」の中に掲載されていますが、常に改定される可能性があります。新たに改定されれば、本誌等でお伝えする予定ですので、会則を参照するときは最新のものがどうかに留意してください。

## スタッフ募集！

毎年恒例のスタッフ募集です。同窓会報「たんぽぽ」編集委員は常々スタッフ不足に悩んでいます。そんな恵まれぬ人々にあなたの救いの手を！あなた色の「たんぽぽ」を作ってみませんか？

### \*連絡先\*

たんぽぽ編集委員長：片平 敏誌  
wagahaiha- nekodearu@h.vodafone.ne.jp  
たんぽぽ編集委員：堀 清志  
kurt\_godel\_1906\_4\_28@docomo.ne.jp

## 編集後記

お世話になった皆様どうもありがとうございます。本当にギリギリで仕上がりました。今年の反省を活かして次こそは計画的に進めてみたいものです。これからも「たんぽぽ」をよろしく願います。

「編集委員長・片平 敏誌」

今年も「たんぽぽ」を御愛読くださりありがとうございます。ちなみに、校長先生が巻頭言でおっしゃっているF・Tはフロンティア・タイム、P・Sはプロジェクト・スタディのことです。御存知ない方は高校のWebサイトを御覧ください。

「編集委員・堀 清志」